

東日本大地震のお見舞い申し上げます。

福寿草が顔を出し、オオイヌノブグリが咲きほころぶ姿を見つける日々がやってまいりました。子ども達は、ジャンパーを脱ぎ、木登りをしたり、ほんのちょっぴり緑になってきたスロープで縄跳びをしたり、お弁当を広げたり。新学期が始まった昨年4月の情景が再び訪れ、確かな季節の繰り返しを子ども達から感じる事が出来ます。

玄関前では工事が始まっていますが、その傍らの土手で、年長児が、小さなノビルを見つけて、歓声を上げて掘っていました。入室した4月には、必ず子ども達はノビルを連日掘ります。そんな姿を思い出しながら、確実にそんな体験が自然に細胞に染み渡っていると実感しました。こんなシブで小さな芽に感動して、ずっと遊び続ける心こそ、ふっとした瞬間で感じる心こそ、私たちが大切にしていきたいものだと感じました。

そして、この子達が、前向きに 簡単な言葉で言えば、元気(心が)に生きていけるのかどうか、日本の未来、将来がかかっているのだと思っています。そのために、私たち大人に出来ることは、祈り 祈る 諦めない 自分で引き受ける 手間暇かける 過去の価値を見直す 自分の眼で確かめる など、最終的には 自分の暮らしを自分で判断して引き受ける そして、自分で出来ることで他人を自らの行動で思う ことだと考えます。



【PRAY FOR JAPAN】

友人からの紹介で、「じゅん先生」のブログで、宝地図ムービー(祈る 祈る)を見た。(じゅん先生で検索)ぜひ、1度 ご覧下さい。これからの日本は、これに集約されていると思う。日本の国力、精神が試されていると思う。

ガソリンがない、カップラーメンやトイレトペーパー、電池などが売り切れ続出。被災地のことだと思っていたら、全国各地であり、それも、自分たちの生活に備えていることらしい。なにかおかしい。子ども達に、このことを、大人はどう説明出来るのだろうか。私には、こんな事は出来ない。

誤解を招いてはいけませんが、これは被災地ではなく、ここ長野での話だが。

ガソリンがなかったらどうするのか。今まで車での移動を、歩きか自転車にシフトして、生活を作ればいい。先日、年長児が歩いたように、2、3時間かけて歩けばいい。

トイレトペーパーがなければ、節約するか、新聞紙などをこすって柔らかくして使うか、手で拭けばいい。

電池を買い占めるのだったら、明かりを使わない、電気に頼らない生活を考えればいい。

ガソリンやトイレトペーパーや生活必需品などは、被災地の人達こそ必要としているものであり、私にとっては必需品ではない。無い生活を出来るだけ考えながら、想いを寄せていく。

自分たちのために買い備える金があるならば、その金は、わたしは、義援金に回したい。車を使わないで歩けば、それで浮いたガソリン代は、義援金にまわしたい。

無いから、今のうちに買っておこう、無いから諦めよう、手放そう、中止しよう、自粛しよう など。本来、時間や予算を使う予定であったものならば、手放すことにより、浮いた時間やお金は、被災地のために使いたい。

普段の生活で、自分の暮らしは自分で引き受けることを、子ども達と共に出来るだけ実践してきたつもりだ。人に頼らず、へたくそでも自分で考える、挑戦する、やってみる、サバイバルに生きるのではなく、50年ほど前、どの家庭でも普通に行われていた事を、自分でする。下請けに出して、他人にやってもらう、そのために働く、自分の手を汚さずに、汗を流さずに、お金を稼いで、嫌な面を他人にやってもらう こんなことを避けて、やってきたつもりだ。

身体や時間は、それ相当な負担(楽しみ)をもたらすが、それにより、自信やノウハウや充実感が得られ同時にお金も節約出来る。このノウハウや自信、そして、このお金こそ、この瞬間に活かすものだと思う。

私たちが出来ることは、今こそ、手間暇をかけた生活 他人に依存しない生活 物に依存しない生活 それには自ら、身体と心と精神を動かし、無いから買おう、無いから出来ない、無いから手放す ではなく 無いから作ろう 無いから無いなりにきに行ってみよう という姿勢にシフトしなければならない。

私に出来る事は、ムービーのスポーツ選手ではないけれど、これからの世界を背負う子ども達と共に生きているので希望と元気を持った人間として付き合うことだ。青ちゃんは、諦めないよ、何とかするよ、出来なくはない、歩けばいいよ、無ければこうすればいい、手間暇かければ必ずどうにかなる という姿を示したい。凄いんだよ、人間は。凄いんだよ、大人達は。そんなあり方を示したい。

被災地のことを想い、中止や自粛することは当たり前だし、道徳感情から言っても、当然だと思う。しかし、ここには、諦めや手放す感情やネガティブな想いは必要ないと思う。何度も言うが、それにより、浮いた時間や予算そしてそれを行う予定だったエネルギーを、被災地に回すことこそが、1番意味のあることだと思う。それが無いならば、何の意味も無い。それが出来なければ、スポーツ選手のように、一所懸命生きる姿を大会やゲームなどで示すべきだし、手間暇かけて生き方人間力を見せて、お金や物に頼らず自分たちで生み出して大会や行事を行えば良い。

そんな大人達の姿、行動こそ、未来ある子ども達への大きな大人達の役割だと思う。律儀で丁寧で勤勉でモラルある日本人としての特性、誇り を胸に 子ども達に言葉ではなく、あり方で示していきたい。

ある物でやればいい、今の物を受け入れ、その中で始末すればいい、それには手間暇がかかる、でも、その原動力は諦めない 何とかする、必ず出来る 絶対出来る の祈りしかない。

私達、大地は今まで通り生きていくだけ。自分たちの暮らしは、出来るだけ 自分で引き受ける。その自信と誇りは他人のために、いざというときは、自信をもって、共に分かち合っていくだけだ。